



第116期(2025年3月期) 決算説明会

株式会社 サンエー化研

2025年6月10日

目 次

1. 第116期(2025年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第117期(2026年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目 次

1. 第116期(2025年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第116期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期末 (第115期末)	2025年3月期末 (第116期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,408	22,950	22,559	▲ 391	-1.7%
現金預金	6,262	7,317	6,380	▲ 936	-12.8%
売上債権	10,883	10,579	10,980	400	3.8%
棚卸資産	4,987	4,840	5,019	178	3.7%
その他	274	212	178	▲ 33	-15.8%
固定資産	13,202	14,489	15,250	760	5.3%
有形固定資産	6,835	6,723	7,062	339	5.0%
無形固定資産	40	87	792	704	803.4%
投資その他の資産	6,327	7,678	7,395	▲ 282	-3.7%
資産合計	35,611	37,440	37,810	369	1.0%

第116期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

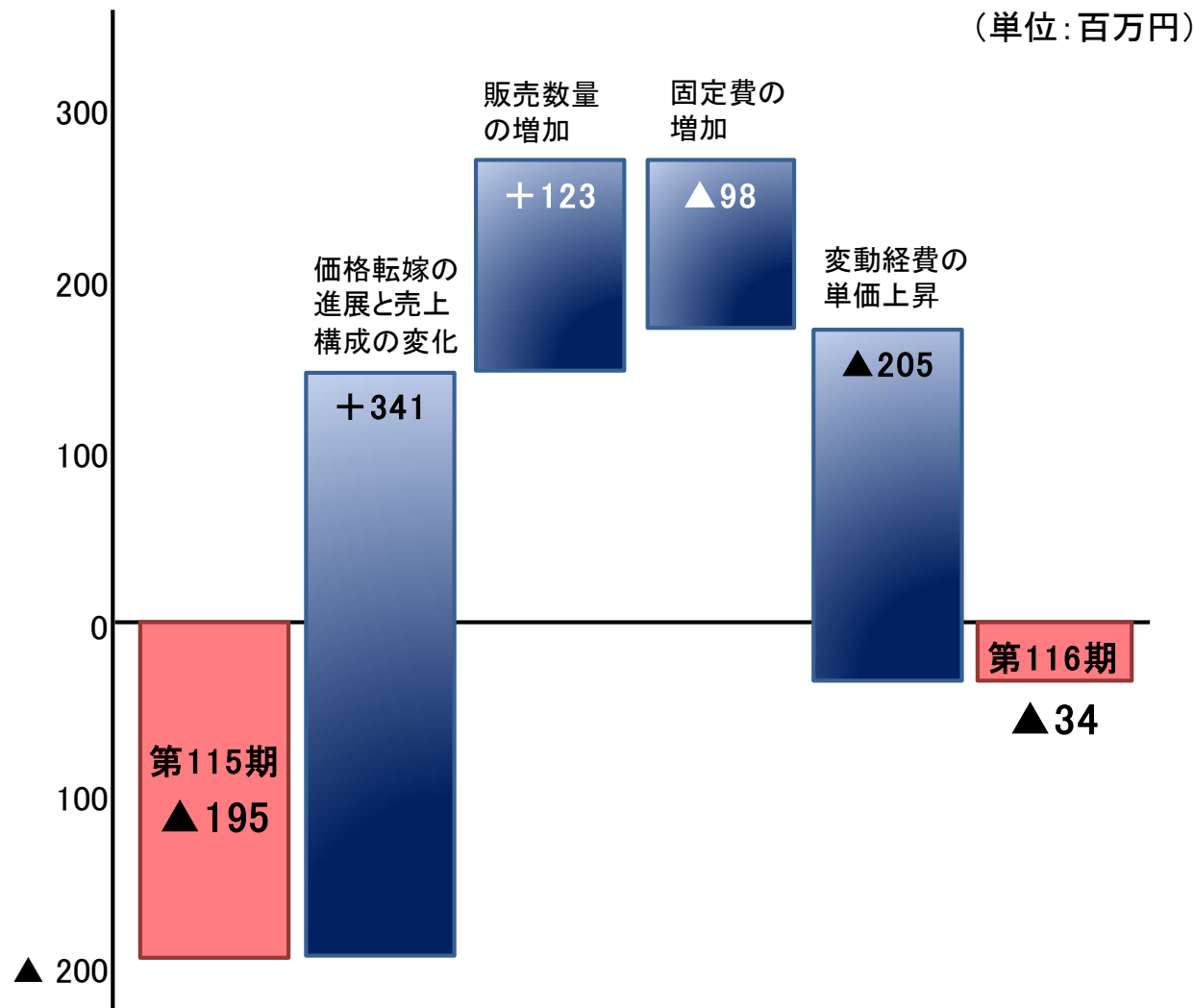
科 目	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期末 (第115期末)	2025年3月期末 (第116期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,700	12,696	13,316	620	4.9%
仕入債務	6,920	6,919	6,739	▲ 179	-2.6%
短期借入金	3,630	3,690	4,370	680	18.4%
その他	2,149	2,086	2,206	120	5.8%
固定負債	2,431	3,142	3,475	333	10.6%
長期借入金	883	412	847	434	105.3%
その他	1,548	2,729	2,628	▲ 101	-3.7%
負債合計	15,132	15,838	16,792	953	6.0%
純資産	20,479	21,602	21,018	▲ 583	-2.7%
負債及び純資産合計	35,611	37,440	37,810	369	1.0%

第116期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	27,870	27,521	29,430	1,908	6.9%
売上原価	25,287	24,656	26,072	1,415	5.7%
売上総利益	2,582	2,864	3,357	492	17.2%
販売費及び一般管理費	3,051	3,059	3,391	332	10.9%
営業利益	▲ 468	▲ 195	▲ 34	160	—
営業外収益	267	274	229	▲ 44	-16.3%
営業外費用	35	43	106	62	142.0%
経常利益	▲ 236	35	88	53	150.1%
特別利益	7	967	377	▲ 589	-61.0%
特別損失	68	3	50	47	1456.8%
税引前当期純利益	▲ 297	999	415	▲ 583	-58.4%
税金費用他	▲ 99	651	178	▲ 472	-72.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 198	348	237	▲ 111	-31.9%

第116期決算概要: 営業利益の要因分解



販売面においては、販売価格の値上げによる価格転嫁の進展と、比較的収益性の高いサニテクトNSタイプや両面テープ用剥離紙等の好調で、売上構成の変化による増益要因が合わせて3億41百万円、全部門で販売数量が増加したことによる増益要因が1億23百万円となりました。

費用面においては、減価償却費や人件費等の固定費が98百万円増加したことが利益を押し下げました。また、外注費や物流費等の平均単価上昇により、2億5百万円の減益要因となりました。

これらの諸要因により連結営業利益は1億61百万円赤字幅を縮小し、34百万円の営業損失となりました。

目 次

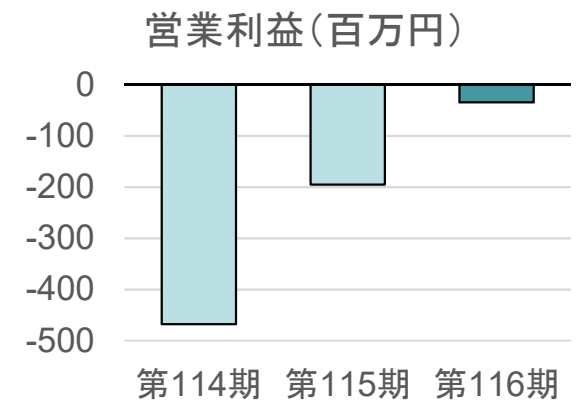
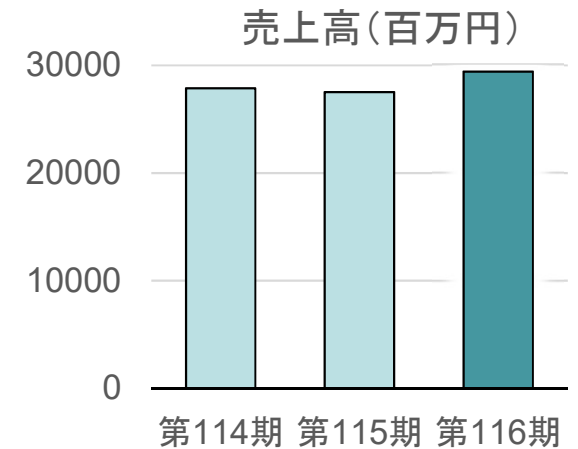
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

(単位：百万円)

科 目	第114期	第115期	第116期	増減額	増減率
売上高	27,870	27,521	29,430	1,908	6.9%
軽包装材料	12,049	11,880	12,559	678	5.7%
産業資材	9,904	9,738	10,169	431	4.4%
機能性材料	5,588	5,557	6,141	584	10.5%
その他	327	344	558	214	62.2%
営業利益	▲ 468	▲ 195	▲ 34	160	—
軽包装材料	213	176	158	▲ 17	▲10.0%
産業資材	▲ 364	▲ 233	▲ 151	82	—
機能性材料	▲ 353	▲ 153	▲ 96	57	—
その他	37	15	54	38	244.1%



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品用包材

売上高
6,368百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

収益性・成長性

- 電子レンジ用包材はCO2排出量削減に効果的
- 介護、高齢者食用パウチの市場性期待

医薬品・医療用包材

売上高
2,143百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- バイオマスPTPシート「Medi Green」に期待
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

日用品等の包材

売上高
4,048百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 紙を使用するなど環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い

収益性・成長性

- プラボトルからフィルムパウチ、パウチから紙使用パウチへ
- モノマテ化など環境対応製品開発急務

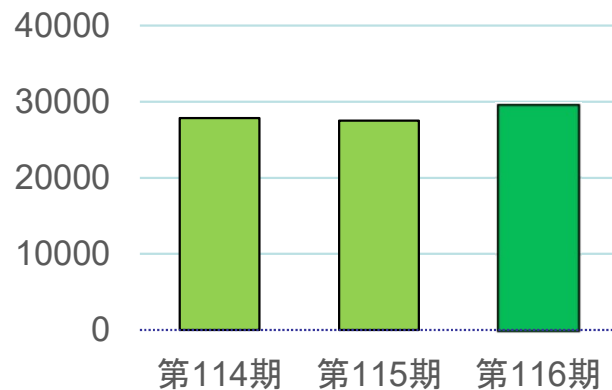
各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

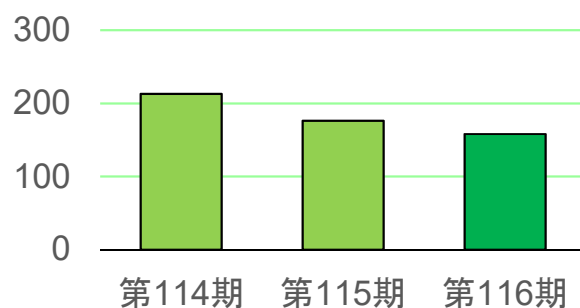
■ 売上高：12,559 百万円（前期比 5.7 % 増）

■ 営業利益：158 百万円（前期比 10.0 % 減）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



■ 増収減益

■ 「レンジD○！」はソースや単品の温め用途から、パスタなども入って、1食として完結するようなニーズが増えている。

■ 食料品を中心に製品値上げが続いており、消費者の慎重な出費が、期の後半の伸び悩み要因。

■ 医薬品・医療用包材は慢性疾患の増加や高齢化により需要が安定、前期並みの数量を受注。

■ 外注費の増加や新製袋ラインの立ち上げ費用発生等により減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

紙・布へのラミネート製品

売上高 4,159百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋 : 約900百万m²/年
- 紙テープ用 : 約420百万m²/年
- 布テープ用 : 約200百万m²/年

市場環境

- 海外製布テープ流入により減少
- 海外製OPPテープとも一部競合

収益性・成長性

- 一般品は生産数量の確保が課題
- 海外製テープ流入により、顧客である国内テープメーカーの事業への影響懸念
- 環境配慮によりOPPからクラフトへ一部回帰が見られる。
- 原材料値上がりによる収益への影響大

剥離紙

売上高 6,010百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

市場環境

- 国内の需要減は底打ちも、消費の戻りが鈍い
- 海外向けテープ需要増

収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- 自動車関連用途の伸長に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は、厳しい環境下ながら需要は安定

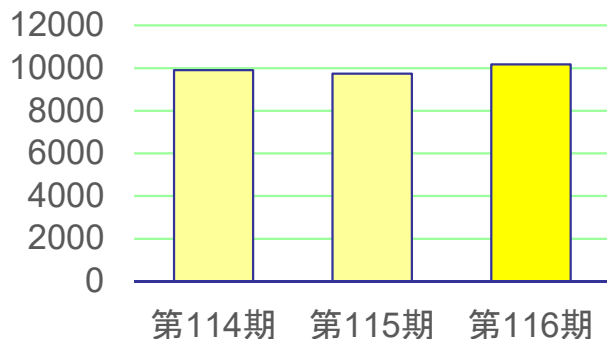
各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

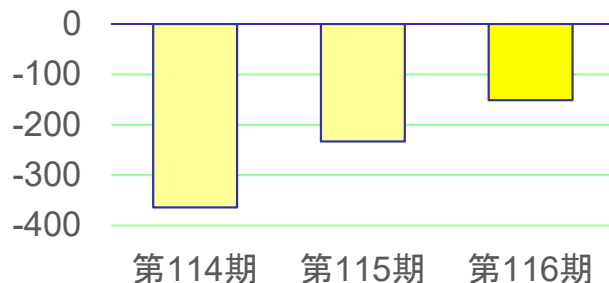
■ 売上高：10,169 百万円（前期比 4.4 % 増）

■ 営業利益：▲151 百万円（前期実績 ▲233百万円）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



- 紙・布へのラミネート製品については、輸入品PPテープの値上げや脱炭素化の流れを受けてクラフトテープ基材用途の受注が増加。増収となり利益も改善。
- 剥離紙については、建材用途向け及び家電用途向け製品の受注が低調ながらも、自動車関連用途向けの受注が好調に推移したことから、販売数量は前期比で微増ながら、売上は増収。
- シノムラ化学工業との部門統合による合理化と値上げにより収益改善を図るも、原材料価格や電力・燃料費上昇分の価格転嫁が追いつかず、黒字転換できず。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

オレフィン系粘着加工品

売上高 2,790百万円

サニテクト
(粘着塗工タイプ)



PAC
(2層押出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ

- 約100百万m²/年
(光学用途)

2層押出しタイプ

- 約700百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

- 品種により他社製2層押出しタイプとも競合
- 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
- レゾナックより事業承継で販売品目と顧客拡大

2層押出しタイプ

- 偏光板用途の需要減少
- レゾナックより譲り受けた技術の活用

その他の粘着加工品

売上高 3,351百万円

SAT、
サニテクトNS
その他
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ

- 約600百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

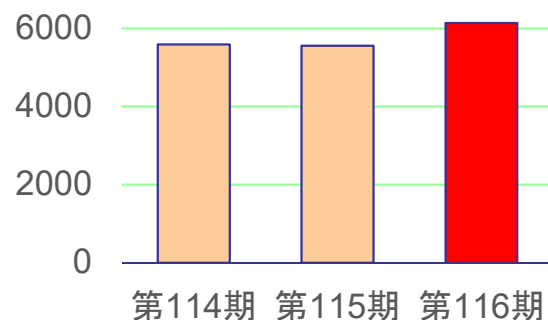
- 光学関連用途は、前期後半から好調を維持
- スマートフォン関連はフォルダブルタイプの需要が増加傾向
- アフリカ向けスマートフォンは好調
- 車載用、映像機器部材用途は量産レベルへ

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

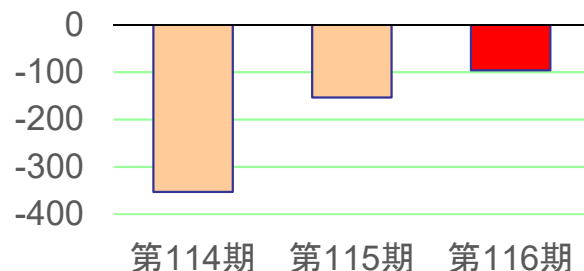
機能性材料

■ 売上高： 6,141 百万円 （前期比 10.5 % 増）
 ■ 営業利益： ▲96 百万円 （前期実績 ▲153百万円）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



- オレフィン系粘着加工品は、安定的な受注があり、前年並みの売上で推移。
- 液晶パネルメーカー、部材メーカーの在庫調整が進み、非オレフィン系の光学用表面保護フィルムの受注は、前期後半からの好調を維持し、売上は対前期2桁増。
- 原材料価格や電力・燃料費高騰に対する製品への価格転嫁の進行により収益改善を図るも十分とは言えず、また、事業拡大のための投資もあったことから赤字継続。

目 次

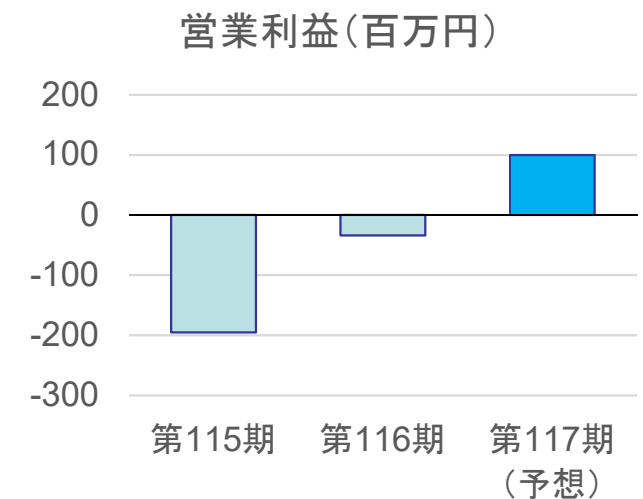
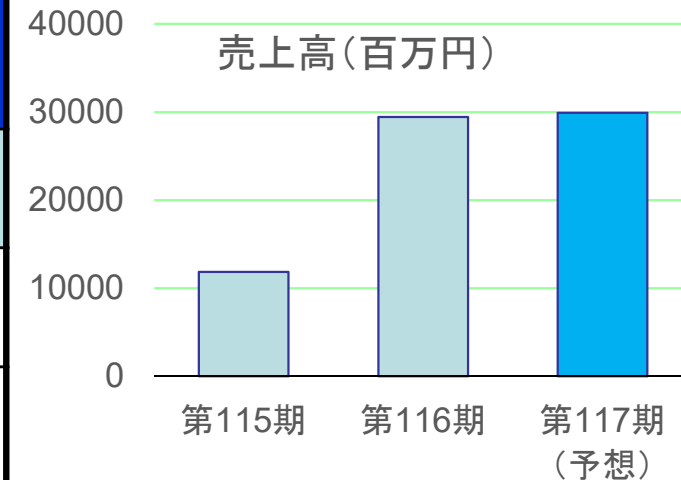
3. 第117期(2026年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第117期業績予想と今後の施策：翌期業績予想

(単位：百万円)

科目／ セグメント	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	27,521	29,430	29,920	489	1.7%
軽包装材料	11,880	12,559	12,200	▲359	▲2.9%
産業資材	9,738	10,169	10,200	30	0.3%
機能性材料	5,557	6,141	7,100	958	15.6%
その他	344	558	420	▲138	▲24.8%
営業利益	▲195	▲34	100	134	—
経常利益	35	88	230	141	158.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	348	237	160	▲77	▲32.5%



第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

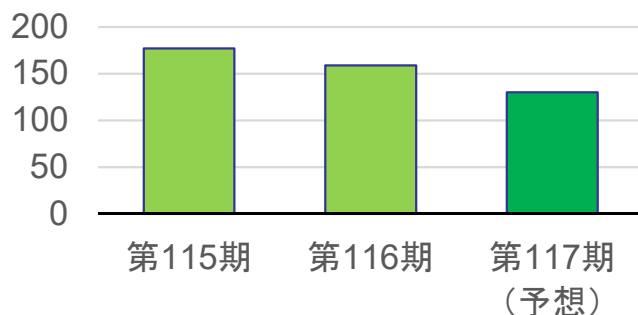
【第117期業績予想】

- 売上高： 12,200 百万円（当期比 2.9 % 減）
- 営業利益： 130 百万円（当期比 18.2 % 減）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)

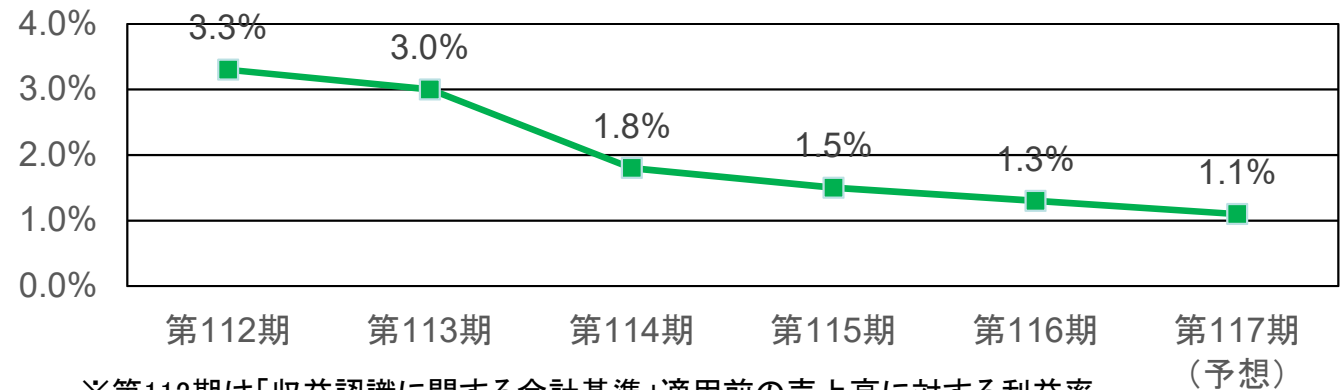


- 電子レンジ対応食品包材は、電子レンジで手軽に調理でき、ガスを使わないのでCO₂の排出が少なく、便利でエコなため今後も安定した需要が見込まれる。
- 使用済容器の減容化やプラスチック使用量削減の流れを受け、ボトルタイプの容器からパウチへの切替需要が期待される。
- 構成の一部に紙を使用した包材の引き合いが増えている。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

営業利益率の推移



- 不採算案件からの撤退、受注条件の見直しや価格改定を実施し、収益性を向上させる。
- レンジ対応食品包材を使用した加工食品が増え、消費者の認知度も上がっている。環境対応品など種類を増やし、業界の先駆者として更なる需要の創出を図る。
- 少子高齢化社会に対応するパッケージングの提案を強化する。
- 製袋ラインを中心に作業者の負担を減らし、省人化を含めた合理化を進める。

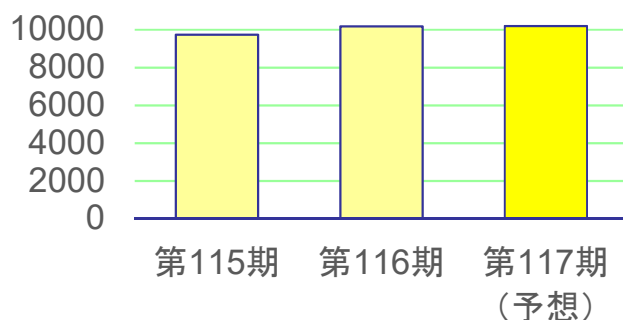
第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

産業資材

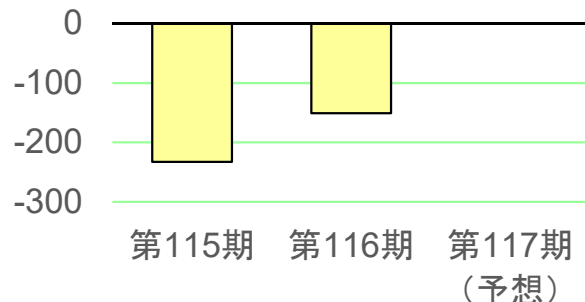
【第117期業績予想】

- 売上高： 10,200 百万円（当期比 0.3 % 増）
- 営業利益： 0 百万円（当期実績 ▲151 百万円）

売上高(百万円)



営業利益(百万円)

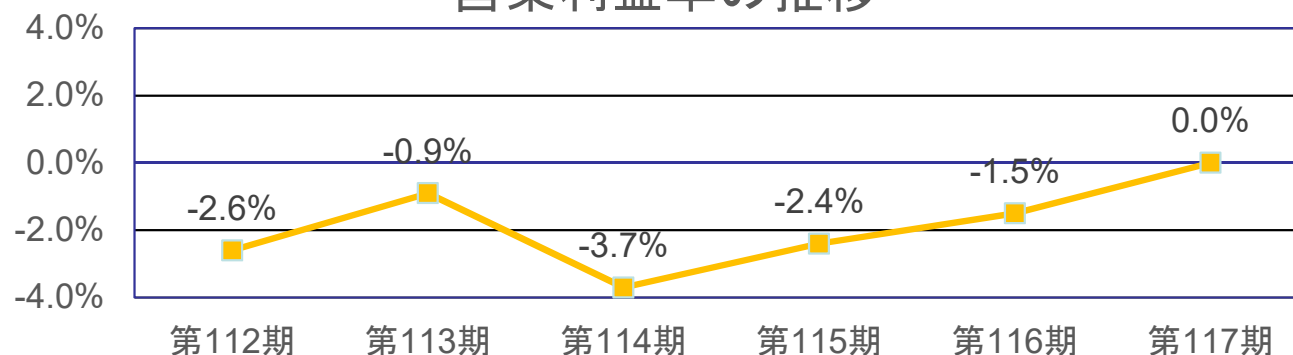


- 紙・布へのラミネート製品については、消費回復の戻りが弱いことと、海外品の流入による顧客への影響懸念から弱含みの予想。
- 剥離紙については、輸出用両面テープの好調が一定レベル続くと考え、ややプラス。
- 原材料コストだけでなく、ユーティリティコスト上昇分についても価格転嫁を進め、収益性は改善傾向。子会社を含む合理化等、黒字化に向けた取り組みを加速させる。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

産業資材

営業利益率の推移



※第112期は「収益認識に関する会計基準」適用前の売上高に対する利益率

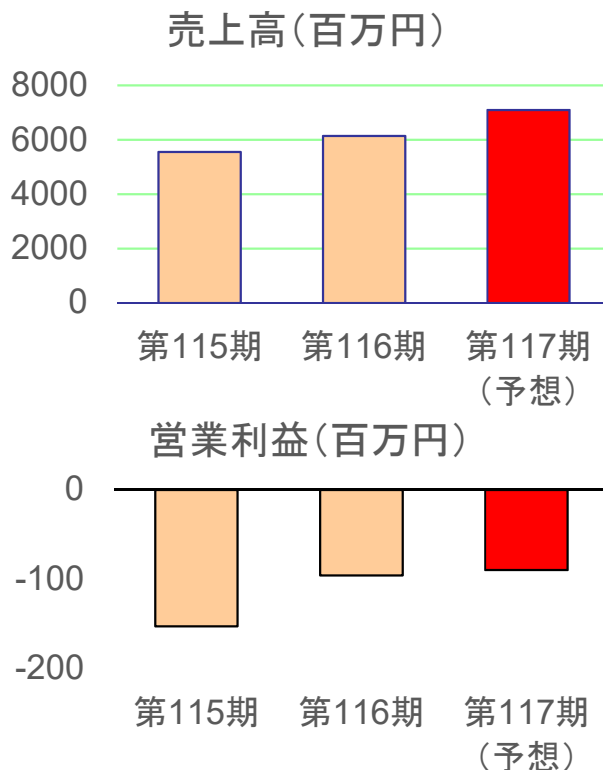
- 持続可能で健全な事業運営のため、引き続き価格改定を行う。
- シノムラ化学工業株式会社との間では、営業統合に続いて進行中の生産、管理などの機能統合を完了させる。
- 当社の強みである「小回りの利く対応力」で顧客のニーズを具現化し、収益性を確保する。
- 脱炭素化に向けて、水平リサイクルを含む環境対応型製品の開発に取り組む。

第117期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

機能性材料

【第117期業績予想】

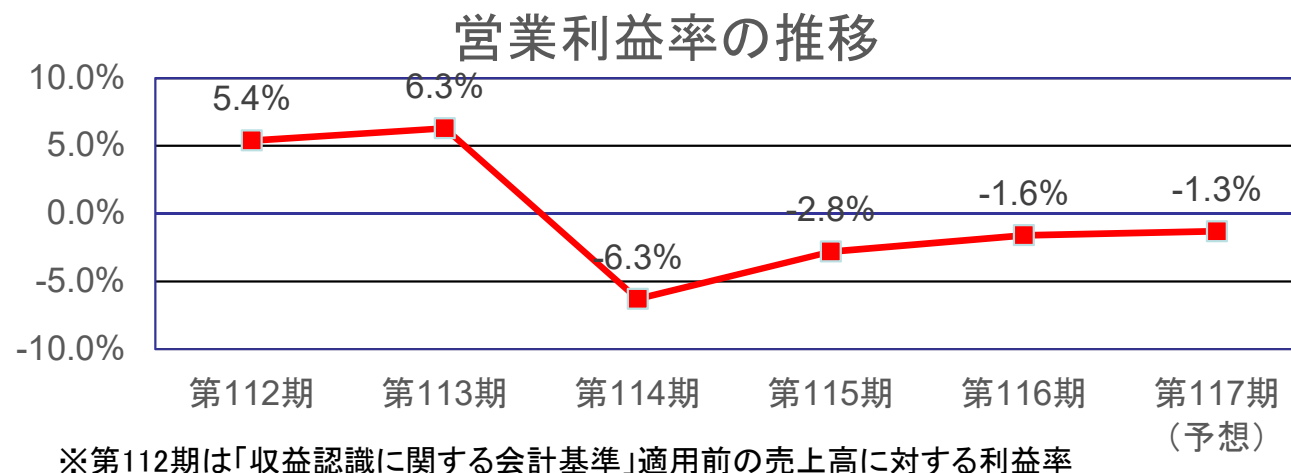
- 売上高： 7,100 百万円（当期比 15.6% 増）
- 営業利益： ▲90 百万円（当期実績 ▲96百万円）



- 大型パネル用途は、業界の再編や製造方法の変更により受注減の予測。
- スマートフォン市場は、発展途上国向けが引き続き好調。フォルダブルタイプの新機種が増えつつあり、市場の成長が見込まれる。
- 株式会社レゾナックより譲り受けた保護フィルム事業は、自社製造による試作品をユーザー評価中。銘柄数が多く、試作費用の支出が続き、通期では赤字予想。

第117期業績予想と今後の施策：今後の施策（機能性材料）

機能性材料



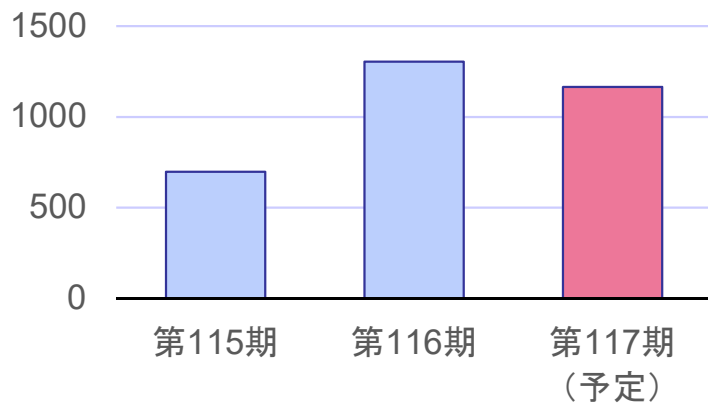
- 銘柄の統廃合や価格改定を実施し、収益構造の改善を進める。
- 株式会社レゾナックより譲り受けた製品事業について、自社での製造体制を整備し、早期に売上・利益へ貢献できるよう、事業統合を進める。
- 取得した技術を活かし、新製品の開発、新市場の開拓、生産体制の見直しを図る。
- 光学関連分野における他企業とのコラボレーションを検討、推進する。

第117期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

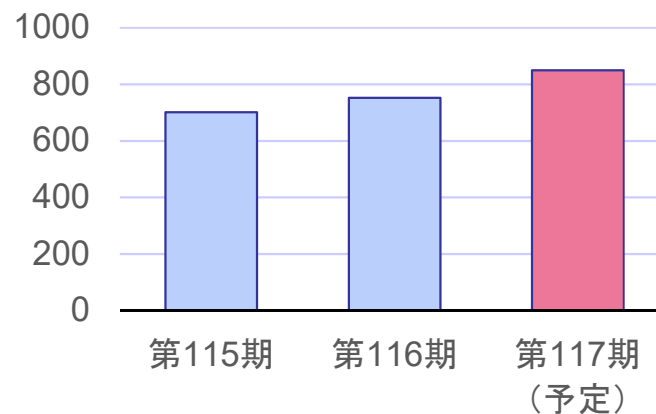
(単位：百万円)

科 目	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期)	2026年4月期 (第117期) (予定)	備 考
設備投資額	698	1,304	1,170	新製袋ラインの導入、設備改造、 設備更新
減価償却費	701	751	850	上記設備投資により増加
研究開発費	413	436	430	従来水準を維持

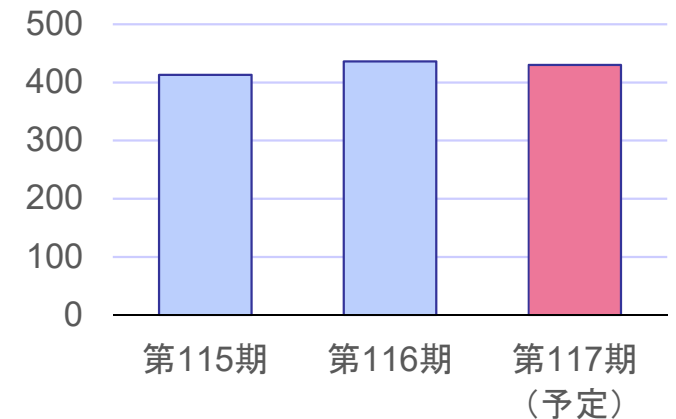
設備投資額(百万円)



減価償却費額(百万円)



研究開発費(百万円)



目 次

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

参考情報：トピックス（新製品紹介 ①）

「紙構成パウチ」

従来タイプ



環境に配慮した「紙構成パウチ」を製品化

紙構成タイプ



- 業務用粉末洗剤の環境対応包材として洗剤メーカーで採用
- 従来構成のパウチと比較してプラスチック使用量を51%削減
- 強度を担保するために、シール強度の向上や、表面コート剤により耐水性を高める等の試行錯誤を重ね、製品化を実現
- 紙パウチの他、バイオマスプラスチックや生分解性樹脂を使用した製品を含め、環境対応製品の拡充に引き続き取り組む

参考情報: トピックス (新製品紹介 ②)

■「環境フィルム」

- 紙構成素材に生分解性樹脂をラミネートした、環境対応型包材
- 生分解性素材を使用しており、土に埋めると微生物により分解されるため、環境負荷が低い
- 内容物に応じたバリア性が付与されており、酸素バリア性、水蒸気バリア性を有する
- 後工程で印刷を行うため比較的小ロットでの対応が可能
- 環境配慮型製品の採用により、ユーザーのブランドイメージ向上に寄与

生分解性樹脂を使用した環境配慮型製品

高級ホテルチェーンのクッキー用包材に採用



参考情報: 基本情報

2025年3月31日現在

商 号
証 券 コー ド
設 立
代 表 者
事 業 所

株式会社 サンエー化研

4234 (東証 スタンダード)

1942年9月 (昭和17年9月)

代表取締役社長 櫻田 武志

本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4

営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋

【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)

生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2ヵ所 内1ヵ所は連結子会社 シノムラ化学工業(株) 本社工場)、掛川 (2ヵ所)、天理、野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

研究開発拠点 : 掛川

21億76百万円

高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売

638名

3月31日

資 本 金
事 業 内 容
連 結 従 業 員 数
決 算 期

業績予想は、本資料の発表日現在(2025年6月10日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp